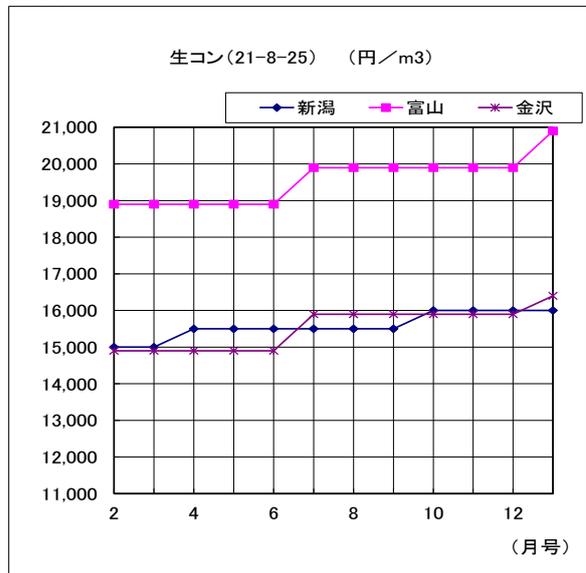
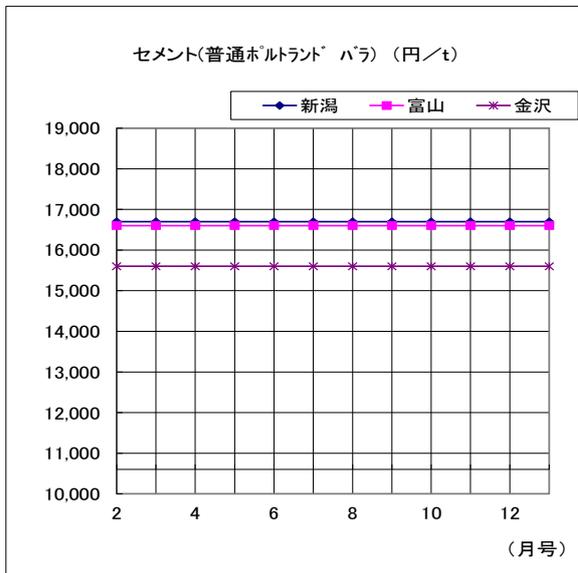


5. 主要建設資材の市況

記事提供：(一財)経済調査会 北陸支部

品目	10～12月期の状況と現況	先行き
セメント	<p>メーカーは早期の値上げを目指すべく周知を図る</p> <p>【新潟県】セメントメーカー各社は、物流や設備投資に掛かるコスト上昇を理由に、2025年4月よりt当たり2,000円程度の値上げを表明。販売側では早期の値上げ浸透を目指し、強気の姿勢を示している。しかし、過去の大規模値上げが市場に浸透して以降、石炭価格は軟調に推移しており、需要者側の値上げに対する抵抗感は強い。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【富山県】セメントメーカー各社は、物流やプラント設備維持に掛かる諸コストの上昇を主要因として、2025年4月より値上げを表明。石炭価格が下落している上、値上げ理由が不透明として、需要者側は難色を示している。一方で、メーカー側の売り腰は強く、需要者の指値には応じない姿勢を見せている。交渉の本格化にはしばらく時間を要すると見る向きもあり、先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】セメントメーカー各社は、物流や工場設備の維持補修などに要するコスト増を背景に値上げを表明。前回の値上げにおける主要因であった石炭価格が下落しているため、需要者側は値上げに対し難色を示しているが、メーカー側は早期の値上げ受入れを求め、強気の姿勢で交渉する構え。先行き、横ばいで推移しよう。</p>	<p>先行き</p> <p>(パ)物)</p> <p>(新潟)</p> <p>➡</p> <p>(富山)</p> <p>➡</p> <p>(金沢)</p> <p>➡</p>
生コンクリート	<p>富山県各地区で価格上伸。石川県金沢・小松・羽咋地区で価格上伸、輪島地区は価格引き下げ</p> <p>【新潟県】新潟生コン協組では、製造コスト高騰分の価格転嫁が不十分として、2024年4月よりm3当たり1,000円の値上げを表明し、需要者と交渉。9月に値上げの一部であるm3当たり500円の浸透以降も、協組では価格重視の方針を堅持し、積み残し分の獲得に注力している。非組合員においても、採算を重視し過度な価格競争の回避を継続しており、先行き、強含みで推移しよう。</p> <p>【富山県】原材料費の上昇や輸送費高騰を背景に、富山および高岡生コン協組は2024年4月よりm3当たり1,000円、砺波生コン協組は昨年度の値上げ未達分も含め2,000円の値上げ獲得に向け交渉を継続。次年度に控えるセメントの値上げが迫り、各協組は売り腰を強めた。また、非組合員においても値上げに追随姿勢を示したことで、秋口に入り工事の本格化に伴い新価格が浸透。富山・高岡・氷見地区はm3当たり1,000円、砺波地区は2,000円の上伸を示した。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】工場経費および原材料費、運搬費の上昇を背景に、羽咋地区では生コン協組がm3当たり1,000円の値上げを打ち出し需要者との交渉を実施。10月に1,000円の市況上伸が見られた。輪島地区では地区内の生コンプラント再稼働に伴い、隣接地区からの生コン供給に伴う割増が解除となったことで、12月に能登生コン協組は価格を2,800円引き下げた。金沢、小松地区においては、過年度値上げの積み残し分が浸透し、12月にm3あたり500円の市況上伸となった。先行き、横ばいで推移しよう。</p>	<p>(21-8-25)</p> <p>(新潟)</p> <p>➡</p> <p>(富山)</p> <p>➡</p> <p>(金沢)</p> <p>➡</p>
骨材	<p>富山県で価格上伸</p> <p>【新潟県】路盤材メーカー各社では、出荷量の低迷および電気・燃料費の高騰による製造コストの上昇を理由に、2023年4月よりm3当たり500円の値上げを表明。隣接する阿賀野地区では価格交渉が進展し、2024年7月にm3あたり300円の上伸。新潟地区では需要が乏しく新価格の浸透には至っていないが、供給元が同じであるため、今後の工事の状況次第では交渉が進むと見られる。先行き、強含みで推移しよう。</p> <p>【富山県】富山県骨材販売協同組合は、2024年4月出荷分からm3あたり450～550円の値上げを唱え需要者と交渉。路盤材については交渉の進展が見られず横ばいで推移しているものの、砂利、砂および単粒碎石については12月にm3あたり450～500円の上伸。当初、販売側の足並みに一部乱れがあり、市況浸透に難航していたが、共販体制を引き締め直し需要者と交渉。最大需要者の生コンメーカーにおける生コン市況が、秋口に入り改善が進んだことで骨材の値上げを受容する動きが散見され新価格が浸透した。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】路盤材メーカー各社は、工場経費、運搬費などの上昇を背景に、2024年4月以降順次値上げを実施。金沢・小松・白山地区では8月にm3当たり400円の市況上伸に至るも、その後は価格維持に注力しており、市況に動意は見られない。なお、メーカー各社は2025年4月より再度m3あたり400円の値上げを表明している。需要者側は様子見ムードが強く、先行き、横ばいで推移しよう。</p>	<p>(C-40)</p> <p>(新潟)</p> <p>➡</p> <p>(富山)</p> <p>➡</p> <p>(金沢)</p> <p>➡</p>

【価格推移】



品目	10～12月期の状況と現況	先行き
棒鋼	<p style="text-align: center;">全県で価格下落</p> <p>【新潟県】注目すべき大型物件はなく、需要は精彩を欠いている。原材料の鉄スクラップ価格が10月に下落したため、一部の大手電炉メーカーは大幅値下げを表明。販売側はこれまでのメーカー値上げ分の価格転嫁が不十分であるとの理由から価格維持の姿勢を示した。しかし、需要者側は原材料価格の下落と一部のメーカー値下げを理由に値引き要求を強く求めた結果、価格は下落。年度末にかけても需要低迷は続くと思われ、今後は販売側間で物件確保をめぐる競争が強まる模様。先行き、弱含みで推移しよう。</p> <p>【富山県・石川県】メーカー側は需要見合いの生産体制をとっているが、需要低迷の長期化により需給に引き締まりは感じられない。原材料の鉄スクラップ価格が10月に下落したことを受け、需要者側は値下げを要求。11月に鉄スクラップ価格が小幅反発したものの、販売側は防戦一方の状況が続く3ヶ月でt当たり6,000円の下落となった。不需要期を控え、先行きに明るさ見えないが、販売側は採算確保のため現行価格の維持に注力している。目先、横ばいで推移しよう。</p>	<p>(異形棒鋼)</p> <p>(新潟)  (富山)  (金沢) </p>
コンクリート二次製品	<p style="text-align: center;">新潟・富山で一部製品の売り腰強まる</p> <p>【新潟県】メーカー側は、骨材や運搬費の上昇を背景に、2024年4月から水路などの一部製品において値上げを実施。上半期は、引き合いが少なく価格交渉が難航していたものの、出水期が終わる下半期に徐々に需要が増加してきたことで価格交渉が本格化している。需要者側は、度重なる値上げに難色を示しているものの、運搬費の上昇には一定の理解を示しており、購買姿勢が軟化しつつある。先行き、強含みで推移しよう。</p> <p>【富山県】メーカー各社は、秋口頃から運搬コストの高騰を背景に一部製品で値上げを表明。しかしながら、需要に盛り上がりはなく、価格交渉は難航している。一方、昨年からの値上げが未達であるJIS小型製品全般では、民間の宅地造成が本格化してきていることを契機に売り腰を強めている。先行き、強含みで推移しよう。</p> <p>【石川県】大型案件に乏しく県内需要は低調な推移を辿っている。こうした中、県内のメーカー各社は、2024年4月に運搬費の上昇を要因として値上げを実施。汎用製品を中心に上半期に価格上伸に至っている。工事需要が本格化する下期においては、メーカー各社の独自製品では一部値上げの浸透が見られるが、汎用製品については市況維持が精一杯。先行き、横ばいで推移しよう。</p>	<p>(道路用製品)</p> <p>(新潟)  (富山)  (金沢) </p>
アスファルト合材	<p style="text-align: center;">富山県で価格上昇</p> <p>【新潟県】各プラントは運搬費や製造コストの上昇から春先に値上げを実施し、県内各地で9月までに価格は上伸。しかし、出荷量の減少が続く中、工場固定費の増加による採算悪化を背景に、価格転嫁を模索している。しかし、主な原材料のストアス価格が方向感に乏しく、冬季期間で需要が減少することから、大半のプラントは現行価格の維持に注力している。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【富山県】出荷量の低迷が続く中、プラント各社は、固定費や運搬コスト上昇により大幅に採算が悪化しているとして、9月の市況上伸後も一段高を目指して、価格交渉を継続。需要者は、度重なる値上げに対し難色を示すも、運搬コストの上昇に対しては一定の理解を示している。そうした中、一部プラントでは出荷停止も辞さない構えで売り腰を強めた結果、需要者は安定供給を優先し値上げを受容。こうした動きが県内全体に波及し、12月に各地区で市況は上伸。先行き、横ばいで推移しよう。</p> <p>【石川県】能登エリアの道路復旧工事が合材需要を牽引し、上半期の合材出荷量は好調な推移。10～12月期においても同傾向で推移しており、能登エリアを中心に需要は旺盛な状況となっている。主たる原材料のストアス価格が方向感なく上下に動いていることから、販売側は現行価格の維持に注力しており、市況に変動は見られない。先行き、横ばいの見通し。</p>	<p>(粗粒-20)</p> <p>(新潟)  (富山)  (金沢) </p>

【価格推移】

